

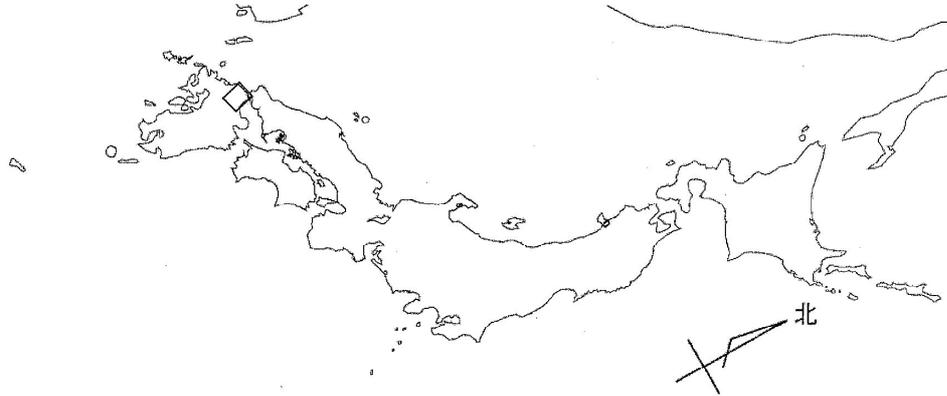
## 解答

問1 牛や馬

問2 日本に寄港する外国の蒸気船の燃料に使われた。

問3 (例) せまく暗い坑道で、機械を使わず、石炭の採掘や運び出しを人の力だけで行っていた。また、安全に配慮した装備などがなく、たいへんきびしく危険な労働であった。

問4 (あ)



(い) 中国から鉄鉱石を輸入しやすい位置にあったから。また、近くの炭鉱で産出した石炭を、川による水運や鉄道で運び込むことができたから。

問5 (あ) 石炭生産量は、1930年代初頭の一時期を除けば大きく増加した。これは、当時の日本で中国への進出を背景に軍需産業をはじめとする重工業が発達したため、石炭の需要が増えていったからである。

(い) 朝鮮半島などから多くの人々を連れてきて、日本の炭鉱で働かせた。

問6 (あ) サウジアラビア・アラブ首長国連邦

(い) (例) 石油は液体なので、固体の石炭に比べて、運搬や貯蔵がしやすい。

(う) 石油危機

問7 (例) 化石燃料は、利用できる量に限りがあるうえ、燃やすと二酸化炭素が発生するので地球温暖化や大気汚染などの環境問題の原因になる。一方、新エネルギーには、発電量が自然条件に左右されることや、発電にかかる費用が割高であることなどの問題点がある。地球温暖化などの環境破壊をくいとめることは、現代のわたしたちにとって最も大切な課題の一つなので、化石燃料の使用をおさえるために、国や地方公共団体は新エネルギーの開発や利用促進にむけた対策を行う必要がある。また、わたしたち一人ひとりにも、生活を見直して省エネルギーに努めること、新エネルギーの利用をすすめていくことが求められる。

## 解説

問3 炭鉱労働はとても悲惨なものでした。高島炭鉱では厳しい労働条件に不満をもった労働者がたびたび暴動を起こしました。炭鉱労働の厳しい状況は雑誌などにも取り上げられ、社会問題となりました。

問4 (い) 八幡製鉄所は日清戦争で得た賠償金などをもとにドイツの技術を用いてつくられました。洞海湾沿いが製鉄に適していた理由として、原料の鉄鉱石の輸入先である清に近かったこと、また近くに筑豊炭田があり、石炭を得やすかったことがあげられます。後に満州で産出された石炭も利用されました。

問5 (い) 日中戦争、太平洋戦争と戦争が長引く中で、日本では労働力が不足してきました。そこで朝鮮人と中国人が日本に連れてこられ、炭鉱などの鉱山や工場などで働かされました。

問6 (あ) 原油の輸入相手先(2008年)の上位3か国はサウジアラビア→アラブ首長国連邦→イランの順です。いずれも中東に位置する国です。

(い) 石油が石炭にくらべてすぐれている点として、運搬や貯蔵がしやすいことのほかに、燃焼した際に発生する二酸化炭素の量が石炭より少ないこともあげられます。

(う) 1973年の第四次中東戦争をきっかけに起きた石油危機を第一次石油危機(オイルショック)、1979年のイラン革命をきっかけに起きた石油危機を第二次石油危機といいます。第一次石油危機では原油価格の上昇にともなって物価が大幅に上がり、高度経済成長は終わりを遂げました。

問7 資源の多くを輸入にたよる日本にとって、今後どのようにエネルギーを利用していくかは重要なテーマです。日本をとりまくエネルギーの現状と課題について整理しておきましょう。